

部外秘

平成26年8月教育委員会議

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

資 料 2

平成26年 8 月 19 日

広島市教育委員会 様

広島市教科用図書採択審議会

会 長

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について（答申）

平成26年5月23日付け、広市教学指一第37号で諮問されたこのことについては、別紙

のとおり答申します。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [国 語] 種目 [国 語]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、指導事項を明確にすることや言語活動の充実を図ることなどに重点を置いた授業改善を推進している。また、全小学校第1学年～第4学年において帯時間を設定し、読んだり書いたりすることの反復学習を継続している。
- 平成25年度「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の児童の学力の実態として、漢字の読み・書きは概ね定着しているが、慣用句や主語・述語の関係等の言葉の特徴やきまりに関する事項の定着には課題があることが挙げられる。また、タイプⅡの調査結果から、いくつかの資料を関連付けて考えたり、条件に従って自分の考えを記述したりするなど、実生活や各教科の様々な場面に活用する力に課題があることが明らかになった。

2 調査・研究の観点と視点

| 観 点 | 視 点 |
|---------------|---|
| <基礎・基本の定着> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標及びまとめの示し方 ○ 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方 ○ 伝統と文化に関する内容の記述 |
| <学習方法の工夫> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習を実施するための工夫 ○ 興味・関心を高めるための工夫 |
| <内容の構成・配列・分量> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間の学習内容の見通しのもとせ方 ○ 単元や資料等の配列 ○ 系統性と反復性の工夫 |
| <内容の表現・表記> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵・写真等の活用 ○ 巻末資料の示し方 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫 |
| <言語活動の充実> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館機能の活用 ○ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫 |

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍（東京書籍）

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末の「てびき」により具体的な目標を示している。
- 単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「言葉の力」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 単元末の「言葉」に語彙や話型・文型を示している。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 2年以上の各学年に伝統と文化を学ぶ単元を5～6設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 学習方法の工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 各単元を「つかむ」、「取り組む」、「振り返る」、「広げる」という構成にしている。
- 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、各学年に「国語のノートの作り方」を設けている。
- 単元末に学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 3年上に鞠の浦を題材にした俳句を掲載している。
- 5年に熊野筆を取り上げた教材文を掲載している。
- 5・6年に「文芸ひろしま」（広島市未来都市創造財団）の俳句を掲載している。
- 6年にヒロシマをテーマにした「ヒロシマのうた」を掲載している。
- 6年に広島県無形民俗文化財である子ども神楽を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもとせ方

- 2年以上の各学年の冒頭に「どんな学習をするのかな」や「1年間の見通しを持とう」のページを設け、学習内容を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 1年から4年までは2冊、5・6年は1冊で構成している。
- 1単元1領域を扱っているが、5・6年には領域を組み合わせた単元も配列している。
- 4年は9単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 学習内容の活用を促すために「つながる」のコーナーを設けて、既習学習を示している。
- 他教科や実生活での活用を図るための「ひろがる」のコーナーを設けている。
- 巻末の「言葉の力」のまとめに前学年の学習内容を併記している。
- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 並行読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「学習で使う言葉」、「言葉の力のまとめ」など学習内容をまとめて掲載している。
- 他教科や総合的な学習の時間に国語科の学習内容を活用するための「言葉の力を活用しよう」を設けている。
- 原稿用紙の使い方や宛名の書き方など、各学年で身に付けるべきことを示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。
- 「こんな本もいっしょに」に教材文に関連する本を紹介している。
- 2年以上の夏休み前の時期に読書へ誘う「本は友達」の小単元を設けている。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。
- 2年以上の各学年に複数のテキストを読み比べる単元を設けている。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

（理由）

東京書籍の教科書の特徴は、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、指導事項を明確にすることや言語活動の充実を図ることなどに重点をおいた授業改善を推進している本市の実態や実生活や各教科等の様々な場面に国語科の学習内容を活用する力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末の「学習のてびき」により具体的な目標を示している。
- 単元末の「国語のカギ」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 学習方法の工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、3年にノート例を示している。
- 単元末の「学習の手引き」に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 1年上の目次に動物の顔を指で押さえてページを開くインデックスを採用している。
- 3年以上の各学年にプレ教材を設け、主体的に学習することができるようにしている。
- 6年上にヒロシマをテーマにした「ヒロシマの傷」を掲載している。
- 6年上にヒロシマをテーマにした「川とノリオ」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 各学年の巻末に「保護者の方へ」のページを設け、目指すことと単元名を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 各学年とも2冊で構成している。
- 1領域を集中的に扱う単元と領域を組み合わせる単元を配列している。
- 4年は12単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 並行読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「授業で使う言葉」「国語のカギ」など学習内容をまとめて掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 2年以上の各学年の巻末に図書館の活用を促す「図書室に行って読もう」を設けている。
- 各学年の巻末に「みんなで本を楽しもう」を設け、読書の楽しみ方を紹介している。
- 「本と友達 読書の部屋」で教材文に関連する本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末に目標を示している。
- 「話すこと・聞くこと」の領域のみ、単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「覚えておきましょう」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 2年以上の各学年に国語辞典、3年以上の各学年に漢字辞典の活用に関する教材を設けている。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している

2 学習方法の工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 単元冒頭や単元末に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 4年にヒロシマをテーマにした「いわたくんちのおばあちゃん」を掲載している。
- 6年に原爆投下に触れた「猿橋勝子」を掲載している。
- 6年に「平和な世界を築くために」というテーマのパネルディスカッションを取り上げている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 2年以上の各学年の冒頭に年間の単元名とめあてを示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 1年は、上下巻、2年以上の各学年は、本編と「小学生の国語学びを広げる」の2冊で構成している。
- 1単元1領域に焦点化して配列している。
- 4年は10単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 「小学生の国語学びを広げる」に、並行読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「小学生の国語学びを広げる」に「言葉のポケット」を設け、他教科や総合的な学習の時間に国語科の学習内容を活用するために、原稿用紙の使い方や宛名の書き方などを示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。
- 「読むこと」だけでなく他領域でも関連する本を紹介している。
- 2年以上の夏休み前の時期に読書へ誘う「あまんさんの部屋」を設けている。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末により具体的な目標を示している。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「ここが大事」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 「読むこと」の単元末の「言葉」に特徴的な言葉の用法を取り上げている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年2～4設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 学習方法の工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 単元冒頭や単元末に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 1・2年にかかるたや紙人形などを切り取って学習に活用する付録がある。
- 6年にヒロシマをテーマにした「川とノリオ」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 各学年の巻末に「この本で学ぶこと」のページを設け、年間の学習内容を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 各学年とも2冊で構成している。
- 1単元1領域を扱っているが、1・5・6年には各領域を組み合わせた単元も配列している。
- 4年は17単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 下巻末の「国語学習これまでこれから」に心に残った学習や次学年で学びたいことを記すページを設けている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 「言葉の木」に言葉をまとめて掲載している。
- 手紙の書き方や区切り符号の使い方など、身に付けるべきことを示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 1～4年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。
- 巻末の「読みたい本」で本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末により具体的な目標を示している。
- 単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「たいせつ」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 「読むこと」の単元末の「言葉」に特徴的な言葉の用法を取り上げている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している

2 学習方法の工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、3年にノート例を示している。
- 単元末に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 3年以上の各学年にプレ教材を設け、主体的に学習することができるようにしている。
- 6年に原爆ドームについて触れた「平和のとりでを築く」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもとせ方

- 3年以上の各学年の冒頭に「学習を見わたそう」のページを設け、年間の学習内容を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 1年から4年までは2冊、5・6年は1冊で構成している。
- 1単元1領域を扱っているが、5・6年には領域を組み合わせた単元も配列している。
- 4年は11単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 2年以上の各巻冒頭に「いつも気をつけよう」のページを設けて既習学習を示している。
- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 並行読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「学習で用いる言葉」、「『たいせつ』のまとめ」に学習内容をまとめて掲載している。
- 2年以上の各学年の上巻末の「言葉の宝箱」に学年に応じた語彙を示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年に読書活動の充実を図る単元「本は友達」を設けている。
- 巻末の「この本、読もう」に本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。
- 「読むこと」の単元は、手引きを2段組で構成し、上段に読みの観点を下段に言語活動の手順を示している。

意見

光村図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

光村図書の教科書の特徴は、言語活動の充実を図ることに重点を置いた授業改善を推進している本市の実態や言葉の特徴やきまりに関する事項の定着に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [国 語] 種目 [書 写]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、各小学校において小学校教育研究会国語部会が主催する「書き初め会」を実施しており、年のはじめに硬筆や毛筆の作品を書くことにより伝統と文化に触れる体験をさせている。毛筆を使用する書写の指導は、担任が担当する以外に、学校によっては、主幹教諭や特定の教科担当教諭等、担任以外の教諭が担当することがあり、書写の学習内容を実生活や各教科の様々な場面に生かすことができにくい現状がある。
- 生活環境の二極化により、家庭において年賀状や手紙を書く経験が少ない児童がおり、学習内容の定着が図りにくい状況がある。また、入学前に誤った筆記具の持ち方や姿勢等を習得している児童がおり、その改善が困難な状況がある。

2 調査・研究の観点と視点

| 観 点 | 視 点 |
|---------------|---|
| ＜基礎・基本の定着＞ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標の示し方 ○ 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方 ○ 伝統と文化に関する内容の記述 |
| ＜学習方法の工夫＞ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 学習内容の定着のための工夫 |
| ＜内容の構成・配列・分量＞ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や資料等の配列 ○ 単元の数 |
| ＜内容の表現・表記＞ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵や写真等の活用 ○ 巻末資料の示し方 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫 |
| ＜言語活動の充実＞ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫 |

3 各教科書の特徴及び意見

東
書
（東
京
書
籍

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭の「調べよう」に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 1・2年巻末に書く姿勢を整えるための「しよしゃたいそう」を掲載している。
- 2年に観察などの際に座って書くときの姿勢を示している。
- 3年以上の各学年に筆を左手で持つ児童のために用具の置き方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 各学年に童謡や古文・漢文などをなぞり書きするページを設けている。
- 3年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 4年に年賀状の書き方を扱っている。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 1・2年に自己評価に活用するシールを付けている。
- 年間の見通しをもつために、巻頭に1・2年は「書写のたからばこ」3年以上の各学年に「書写のとび箱に挑戦」のページを設けている。
- 3年に熊野筆と職人へのインタビュー、4年に広島県のポスターを掲載している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆の学習は硬筆から導入している。毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、毛筆と硬筆の関連を図っている。(硬筆→毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 学び方の手順として、「調べよう」、「確かめよう」、「広げよう」、「学習を振り返ろう」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。
- 3年以上の各学年にインデックスを用いて既習学習を確認できるようにしている。
- 各学年にワイドな紙面を活用して書き込み欄を多く設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・4 3年・・・8 4年・・・8 5年・・・7 6年・・・7

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年以上の各学年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真と合い言葉を用いて説明している。筆の穂の向きを折り紙の図を用いて「折り紙半分」と表現している。
- 1・2・3・4年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。
- 3年以上の毛筆の書き初めの手本には、名前の字間や文字の中心を示している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて1・2年は硬筆、3年以上の各学年は毛筆の書き文字で掲載している。
- 各学年に、平仮名・片仮名・ローマ字の一覧等を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「生活に広げよう」のコーナーで手紙や新聞等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。
- 各学年にノート例を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、書写の学習内容を実生活や各教科の様々な場面に生かすことができにくい本市の実態や、正しい筆記具の持ち方や姿勢等が定着しにくい児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 学習活動ごとに具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 1・2年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している
- 1・2年に姿勢を整える歌を示している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 各学年に伝承されている詩歌、古文などを掲載している。
- 3・4・5年に筆・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 5年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 1・2年に自己評価に活用するシールを付けている。
- 3年に熊野筆を写真で取り上げ、筆が作られる様子を掲載している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 1・2年に「書写の学習の仕方」3年以上の各学年に「毛筆学習の進め方」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 毛筆教材は3年以上の各学年とも巻頭単元を一文字の作品にしている。
- 3年以上の各学年で選択教材を設けている。

(2) 単元の数

- 1年・・・9 2年・・・9 3年・・・10 4年・・・9 5年・・・7 6年・・・7

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを三角定規の図を用いて「三角定規の斜めの線の向き」と表現している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を1・2年は硬筆、3年以上の各学年は硬筆・毛筆の書き文字で掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 毛筆教材は手本の実寸大である。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「硬筆に生かそう」のコーナーで、メモ・観察カード等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 1・2・5・6年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2年に姿勢を整える合い言葉を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 2・5年に昔話や俳句を扱っている。
- 4年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 2年に年賀状の書き方を扱っている。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。
- 6年に文字の由来を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 3・4年に毛筆の穂先の向きを統一したキャラクターで示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 1・2・3・4年は、毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆) 5・6年は、毛筆の学習は硬筆から導入している。毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、毛筆と硬筆の関連を図っている。(硬筆→毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 3・4年は「考えよう」、「えん筆で書こう」、「たしかめよう」、5・6年は「考えよう」、「書いて確かめよう」、「毛筆で確かめよう」、「確かめ合おう」という学習の手順を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 6年に6文字の毛筆教材を扱っている。

(2) 単元の数

- 1年・・・単元を示していない 2年・・・3 3年・・・4 4年・・・5
5年・・・4 6年・・・4

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年以上の各学年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを時計の図を用いて説明している。
- 1・2年は書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて硬筆の書き文字で掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「広げよう」のコーナーで、レポート用紙・ポスター等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭の「めあて」に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 裏表紙に筆記具の持ち方を再掲している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 3年以上の各学年に俳句・短歌・古文などを掲載している。
- 3年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 2・4・6年に年賀状の書き方を扱っている。
- 1年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材は硬筆から導入している。毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、毛筆と硬筆の関連を図っている。(硬筆→毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 3年以上の各学年に学習の手順として「考えよう」、「ここが大切」、「生かそう」、「振り返ろう」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 6年に選択教材を設けている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・3 3年・・・8 4年・・・7 5年・・・7 6年・・・6

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3・4年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて説明している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて硬筆の書き文字で掲載している。
- 1年は片仮名、2・5・6年は平仮名、3・4年は平仮名・片仮名の一覧を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「トライあんどチャレンジ」のコーナーで、手紙・掲示物等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴は、書写の学習内容を実生活や各教科の様々な場面に生かすことができにくい本市の実態に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 学習活動ごとに具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 1・2年に筆記具の持ち方をチェックするページを設けている。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 4年以上の各学年に和歌・俳句・古文などを掲載している。
- 3・4年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 4年の漢字の組み立てを考えるために漢字の部分のシールを貼る学習を取り入れている。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 3年以上の各学年に学習の手順として「すみのついていない筆でなぞろう」、「毛筆で書こう」、「学習したことを生かして書こう」、「振り返ろう」を示すとともに、4年以上の各学年の巻頭に「学習の進め方」を掲載している。
- 学習のまとめごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・3 3年・・・6 4年・・・5 5年・・・3 6年・・・4

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3・4年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて説明している。
- 1・2年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。
- 3年以上の毛筆の書き初めの手本には、名前の文字数による字間を示している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年のものについては硬筆、当該学年のものについては1・2年は硬筆、3年以上の各学年は硬筆と毛筆の書き文字で掲載している。
- 2年以上の各学年に平仮名・片仮名・ローマ字の一覧等を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年にリーフレット・パンフレット等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭に目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 2年以上の各学年に童謡・和歌・俳句・古文などを掲載している。
- 5年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 1・2年に年賀状の書き方を扱っている。
- 1年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 各学年に学習の手順として「考える」、「確かめる」、「書いてみる(いかす)」を示すとともに、5・6年の巻頭に「学習の進め方」を掲載している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 毛筆教材は3年以上の各学年とも巻頭単元を一文字の作品にしている。
- 1・3年以外の各学年に前学年での既習事項を振り返る単元を設定している。

(2) 単元の数

- 1年・・・6 2年・・・5 3年・・・7 4年・・・6 5年・・・6 6年・・・6

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年以上の各学年に毛筆の始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて「折り紙半分」と説明している。
- 1・2年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を硬筆の書き文字で書き順とともに掲載している。
- 3年以上の各学年に、平仮名・片仮名・ローマ字の一覧を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 1年に「ひろがる まなび」、2年以上の各学年に「ひろがる まなび、もっと書こう」のコーナーを設け、日記・新聞等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [社会] 種目 [社会]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力には課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

| 観 点 | 視 点 |
|---------------|---|
| <基礎・基本の定着> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫 ○ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫 |
| <学習方法の工夫> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 問題解決的な学習を実施するための工夫 |
| <内容の構成・配列・分量> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や資料等の配列 |
| <内容の表現・表記> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ○ 本文以外の記述の工夫 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫 |
| <言語活動の充実> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫 |

3 各教科書の特徴及び意見

東
書
（東
京
書
籍

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年上「国土の地形の特色」で、次の数の地形と具体的名称を地図に示している。
・平野（14）・盆地（4）・台地（1）・川（18）・山地、山脈、高地（16）
- 5年上の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題」という文章資料の中で、「日本固有の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年上の国土に関する単元では、22カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年上「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、被爆前の原爆ドーム、現在の原爆ドーム、原子爆弾投下後のまちの様子、平和記念式典の4枚の写真と平和記念資料館館長の話を文章資料として掲載している。
- 6年下「わたしたちの暮らしと日本国憲法」では、見開き2ページの読み物資料『『平和学習の街ヒロシマ』をたずねて』として8枚の写真と文章資料を掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに「めあて」として学習のめあてを示している。また、小単元ごとに「学習問題」として学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「学習の進め方」というページを設け、「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習過程を示している。
- 5年下「自動車をつくる工業」では、「自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようにふうや努力をしているのでしょうか。」という学習問題を示し、日本の自動車づくりのよさをキャッチコピーで表すという「まとめ方」を例示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしのまちみんなのまち（40ページ）②はたらく人とわたしたちの暮らし（58ページ）③かわってきた人々の暮らし（24ページ）④暮らしを守る（52ページ）⑤住みよいくらしをつくる（48ページ）⑥きょう土のはってんにつくす（26ページ）⑦わたしたちの県（58ページ）
- 5年の総ページ数は、260ページである（上巻120ページ、下巻140ページ）。また、6年の総ページ数は、268ページである（上巻156ページ、下巻112ページ）。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年上の日本の歴史に関する単元では、16か所の世界文化遺産が写真で掲載されている。また、写真の表題の後に、世界文化遺産を括弧書きで記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「ことば」として取り上げ、用語の解説を付けて記載している。また、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 各単元の「まとめる」や「いかす」の学習過程において、児童が調べたことや考えたことを表現するための言語活動例を示している。
- 5年では、年間を通して、次の16の言語活動を例示している。
①白地図にまとめる。②ノートにまとめる。③スケジュール表をつくる。④表にまとめる。⑤地図にまとめる。⑥米づくり事典をつくる。⑦テレビ番組をつくる。⑧キャッチコピーをつくる。⑨カルタをつくる。⑩夢の工業製品を考える。⑪関係図をつくる。⑫情報活用宣言をつくる。⑬ホームページをつくる。⑭新聞にまとめる。⑮カードにまとめる。⑯自分の考えを提案する。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、児童が興味・関心をもって学習を進めることができるものであり、自ら課題を見付け、見直しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の実態やひろしま型カリキュラムを進める本市の状況により対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年上「日本の地形と気候」で、次の数の地形と具体的名称を地図に示している。
・平野（8）・盆地（0）・台地（1）・川（16）・山地、山脈、高地（14）
- 5年上の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「日本固有の領土、竹島と尖閣諸島」という文章資料や本文の中で、「日本の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年上の国土に関する単元では、23カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年上「戦争と人々の暮らし」で、被爆直後の原爆ドームの1枚の写真を資料として掲載している。また、1ページの読み物資料「修学旅行で学ぶ原爆の被害と平和への願い」で4枚の写真と文章資料を掲載している。
- 6年下「憲法とわたしたちの暮らし」では、平和記念式典の1枚の写真を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに「学んでいこう」として学習のめあてを示している。また、小単元ごとに「学習問題」として学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」というページを設け、「つかむ→調べる→まとめる・深める」という学習過程を示している。
- 5年上「自動車づくりにはげむ人々」では、「自動車づくりにたずさわる人々は、どのようにふうや努力をしているのだろう。」という学習問題を示し、自動車づくりに求められていること（ニーズ）と、それぞれのニーズに応える自動車づくりのくふうや取り組みを表にまとめるという「まとめ方」を例示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちの大好きなまち（44ページ）②働く人とわたしたちの暮らし（50ページ）③変わるわたしたちの暮らし（24ページ）④安全なくらしとまちづくり（36ページ）⑤健康なくらしとまちづくり（44ページ）⑥昔から今へと続くまちづくり（24ページ）⑦わたしたちの県のまちづくり（54ページ）
- 5年の総ページ数は、232ページである（上巻164ページ、下巻68ページ）。また、6年の総ページ数は、232ページである（上巻152ページ、下巻80ページ）。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年上の日本の歴史に関する単元では、11か所の世界文化遺産が写真で掲載されている。また、写真の表題の後に、世界遺産のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「キーワード」として取り上げている。また、「解説」として、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 各単元の「まとめる」や「深める」の学習過程において、児童が調べたことや考えたことを表現するための言語活動例を示している。
- 5年では、年間を通して、次の7つの言語活動を例示している。
①ノートにまとめる。②表にまとめる。③キャッチフレーズを考える。④新聞にまとめる。⑤工業生産の未来を考える。⑥情報ルールをつくる。⑦環境チェック表をつくる。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「日本の国土」で、次の数の地形を地図に示している。
・平野（23）・盆地（0）・台地（0）・川（17）・山地、山脈、高地（20）
- 5年の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題－北方領土、竹島、尖閣諸島」という文章資料の中で、北方領土は「元から日本の領土」、竹島は「日本固有の領土」、尖閣諸島は「日本の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年の国土に関する単元では、21カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年「戦争の時代から平和の時代へ」で、被爆直後の原爆ドームの1枚の写真と原爆による広島市の被害の様子を表す地図を資料として掲載している。また、見開き2ページの読み物資料「焼け野原から平和都市をめざして」で4枚の写真と文章資料を掲載している。
- 6年「暮らしの中に生きる憲法」では、原爆の子の像の1枚の写真と碑文を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに学習を呼びかける文章で学習のめあてを示している。また、小単元ごとに「クラス学習問題」として学習問題を問の文で示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「ようこそ〇年生の社会科へ」というページを設け、「見つける（ホップ）→調べる・話し合う（ステップ）→まとめる・広げる（ジャンプ）」という学習過程を示している。
- 5年「くらしを支える自動車工業」では、「わたしたちのくらしを支える自動車は、どのようにして作られているのだろう。」という学習問題を示し、「10年後の自動車」の企画書を作るという「まとめ方」を例示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちのまちはどんなまち（36ページ）②見つけたよまちの人たちの仕事（42ページ）③昔って、おもしろい（24ページ）④安全、安心、みんなのくらし（32ページ）⑤さわやか、すこやか、みんなのくらし（40ページ）⑥ふるさとをゆたかに（24ページ）⑦いいところいっぱい、わたしたちの県（42ページ）
- 5年の総ページ数は、228ページである（上・下巻なしの1冊）。また、6年の総ページ数は、228ページである（上・下巻なしの1冊）。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年の日本の歴史に関する単元では、15か所の世界文化遺産が写真で掲載されている。また、写真の表題の後に、世界遺産のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「ことば」として取り上げ、用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 各単元の「まとめる・広げる」の学習過程において、児童が調べたことや考えたことを表現するための言語活動例を示している。
- 5年では、年間を通して、次の13の言語活動を例示している。
①「日本の国土クイズ大会」を開く。②表にまとめる。③パンフレットをつくる。④インタビューをする。⑤ノートにまとめる。⑥食料生産等に関わる問題についてグループで調べて発表する。⑦「10年後の自動車」の企画書をつくる。⑧新聞にまとめる。⑨情報とのつくりあひ方を考えて話し合う。⑩「わたしたちの情報ルール」をつくる。⑪「わたしたちの環境宣言」をつくる。⑫手紙を書く。⑬防災のために、自分たちにできることを考える。

意見

光村図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

（理由）

光村図書の教科書の特徴は、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の実態に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年上「日本の国土と人々の暮らし」で、次の数の地形と具体的名称を地図に示している。
・平野（17）・盆地（0）・台地（0）・川（15）・山地、山脈、高地（20）
- 5年上の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる課題」という文章資料の中で、「日本固有の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年上の国土に関する単元では、20カ国の国名及び19カ国の国旗を地図とともに掲載している。
- 6年上「アジア・太平洋に広がる戦争」で、広島に落とされた原爆の様子、原爆投下を報じる新聞、被爆した人を病院で手当てる様子、被爆直後の原爆ドームの4枚の写真を資料として掲載している。
- 6年下「わたしたちの暮らしと憲法」では、平和記念式典の様子、平和の誓いを読み上げる小学生の2枚の写真を資料として掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに「学習のまど」として学習のめあてを示している。また、小単元ごとに学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「問いの旅」というページを設け、「出会う→ぎもんをもつ→問題をつかむ→予想を立てる→調べる→わかる→ふりかえり、表現する」という学習過程を示している。
- 5年下「自動車工業のさかんな地域」では、「わたしたちの暮らしにかかせない自動車は、どのように生産されているのだろう。」という学習問題を示し、「これからどんな自動車が求められているのか。」について自分の考えとその理由を発表し、話し合うという「まとめ方」を例示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちの住んでいるところ（46ページ）②わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと（62ページ）③今にのこる昔と暮らしのうつりかわり（30ページ）④住みよいくらしをつくる（46ページ）⑤安全なくらしを守る（42ページ）⑥地いきのはってんにつくした人々（22ページ）⑦わたしたちの住んでいる県（42ページ）
- 5年の総ページ数は、228ページである（上巻106ページ、下巻122ページ）。また、6年の総ページ数は、252ページである（上巻168ページ、下巻84ページ）。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年上の日本の歴史に関する単元では、19か所の世界文化遺産が写真で掲載されている。また、写真の表題の後に、世界遺産のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「キーワード」として取り上げ、用語の解説を記載している。また、「むずかしい言葉」として、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 各単元の「ふりかえり、表現する」の学習過程において、児童が調べたことや考えたことを表現するための言語活動例を示している。
- 5年では、年間を通して、次の9つの言語活動を例示している。
①白地図にまとめる。②表にまとめる。③ノートなどの表現物を見せながら、自分の考えを説明する。④新聞にまとめる。⑤写真や資料を示しながら発表し、話し合う。⑥ノートにまとめる。⑦ふりかえりシートに図や文を使ってまとめる。⑧ふりかえりシートに文や矢印、線を用いて関係図にまとめる。⑨情報とのつきあい方を考えて話し合う。